

都道府県番号 1	学校名 東川町立東川小学校 外6校（園）	H29～R3
----------	----------------------	--------

令和3年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発

2 研究の概要（別紙1：研究の概要図 ※様式自由）

自国や地域の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくために（多文化共生）、「人間尊重の精神を基調とする国際性」を養い、「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の向上を図る教科として、新教科「Globe」を創設し、国際教育における初等中等教育の一体的な教育課程の在り方を探る。

具体的には、①新教科「Globe」の創設及び指導内容、指導方法、評価方法の在り方、②幼・小・中・高における国際教育や英語教育（コミュニケーション能力）の接続の在り方、③外国語に慣れ親しみ、異文化理解を深めるための地域人材（18か国のJETスタッフ、10か国の日本語学校留学生）の効果的な活用の在り方、以上3点の研究を行う。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究仮説

① 課題解決のための手段

ア 国際教育を中核とした新教科「Globe」を創設し、指導内容、指導方法、評価方法を体系的に構築することで、自国の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々と共に生きていく（多文化共生）ための資質・能力を育む。

イ コミュニケーション能力の育成として、幼稚園5歳児におけるチャンツやゲームの導入、小学校低学年における外国語活動から中学年・高学年における外国語活動・外国語科への滑らかな接続、また、中学校第1学年の外国語科のスタートカリキュラムの再編成等により、幼・小・中・高の系統性を図る。

ウ 地域における外国人（JETプログラムで招聘している18名の外国人、日本語学校の生徒、専門学校の日本語学科の生徒）との交流等により、相互理解や相互交流を基本とした活動を推進することで、よりよい人間関係の構築に係る資質・能力の育成を図る。

エ 児童生徒の意識調査や5つの領域での評価、地域在住外国人の意識調査、地域住民等へのアンケート調査を実施することで、新教科「Globe」の成果と課題を明らかにするとともに、指導へ生かす。

また、経年変化を分析することで、校種間の接続におけるカリキュラム編成の見直しに資するデータとする。

② 期待する具体的成果

- ア 自国や他国の文化に触れる活動を通して、それぞれの国における文化や習慣を理解することで、多様な価値観を尊重し合う態度（多文化共生）が育成される。
- イ 様々な国の人々との交流活動を通して、日本人として、また、個人としての自分自身を理解する（見つめ直す）ことで、自己理解が図られる。
- ウ 校種間の英語教育を系統的に推進することで、英語に「慣れ親しむ」ことから英語やジェスチャーを使って「自らの考えや意見を自ら発信しようとする」ことができるコミュニケーション能力の向上が図られる。
- エ 新学習指導要領における、これからの国際教育および英語教育のカリキュラム編成に資する実践的資料となる。

（２）教育課程の特例

① 新教科

「Globe」 授業時数

小学校 1・2 学年	年間 35 時間、	小学校 3・4 学年	年間 70 時間
小学校 5・6 学年	年間 105 時間、	中学校 1～3 学年	年間 160 時間
高等学校 1・2 学年	年間 150 時間、	高等学校 3 学年	年間 100 時間

② 既存教科等の授業時数変更に伴う対応案

小学校 1・2 年	生活科から 15 時間、学校裁量の時間から 20 時間
小学校 3・4 年	総合的な学習の時間から 35 時間、 外国語活動から 35 時間
小学校 5・6 年	総合的な学習の時間から 35 時間、 外国語から 70 時間
中学校 1～3 年	総合的な学習の時間から 20 時間、 外国語から 140 時間
高等学校 1・2 年	特別活動から 10 時間、外国語から 140 時間
高等学校 3 年	特別活動から 7 時間、外国語から 93 時間

4 研究内容

（１）教育課程の内容

- ① 新教科「Globe」カリキュラムに基づく実践を行い、ローカル・グローバル要素を取り入れた他教科等との関連を明確にした年間指導計画の改善を行う。
- ② 新教科「Globe」の系統的な指導方法及びCAN-DOリストを活用した評価方法を改善する。
- ③ 補助教材、独自教材の開発に取り組む。
- ④ 新教科「Globe」の授業では、東川町在住のALT、国際交流員（CIR）、スポーツ国際交流員（SEA）、日本語学校留学生をゲストティーチャーとして全校種において活用する。
- ⑤ 各調査から、新教科「Globe」の成果と課題を明らかにするとともに、指導へ生かす。第1年次からの経年変化を分析し、校種間の接続におけるカリキュラム編成の見直しに資するデータを得る。

ふるさと東川を愛する心情を高め、人間尊重の精神を基調とする国際性を養い、国際社会に通用するコミュニケーション能力を育成する。

新教科Globe

★地域の教育資源★

写真文化首都 東川町

写真を取り入れた教育活動

豊かな自然

地域の教育資源を活用した教育活動

国際社会で活躍する 人材の育成

コミュニケーション

文化の異なる人々との
英語をツールとした
コミュニケーション能力

東川高等学校

「自己と世界とのつながりを意識したうえで、
どのように社会にかかわっていくかについて、
主体的かつ建設的に考え、意思決定し行動する。」

東川中学校

「世界の諸問題を自分と結びつけて考え、
解決方法を探り、自分の意見を発信する。」

町立4小学校

「様々な国や文化について理解し、
誰とでも寛容的で協力的な態度で接する。」

幼児センター

「違う国の人と触れ合いながら外国語に
慣れ親しみ、友達と仲良くする。」

★国際人材★

国際交流員 (CIR)

スポーツ国際交流員 (SEA)

外国語指導助手 (ALT)

東川町立日本語学校生

専門学校留学生

ローカル

自国や地域の文化や
伝統に根ざした
自己の確立

グローバル

多様な異文化を受容し、
共生することのできる
態度

(2) 研究の経過

	実施内容等
第一年次	<p>新教科「Globe」推進のための組織づくりとカリキュラム作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究開発学校指定の4年間を見通した研究の骨子の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・研究組織（グローブ推進チーム、運営指導委員会）の設置 ・各学校、関係機関における研究の方向性（創設の目的、仮説等）の共通理解及び連携の明確化 ・研究計画（内容、方法、評価）の作成 ○ 新教科「Globe」のカリキュラム編成 <ul style="list-style-type: none"> ・各学校種間における接続を意識したカリキュラムの作成 ・新教科「Globe」における3要素構成の内容検討 <ul style="list-style-type: none"> 「ローカル」要素： <ul style="list-style-type: none"> 自国や地域の文化や伝統に根差した自己の確立 「グローバル」要素： <ul style="list-style-type: none"> 多様な文化を受容し、共生することのできる態度の育成 「コミュニケーション」要素： <ul style="list-style-type: none"> 文化の異なる人々との英語をツールとしたコミュニケーション能力の育成 ・コミュニケーション要素（外国語活動、外国語科）の系統的（幼・小・中・高）な指導方法の検討 ・小・中・高の関連及び児童・生徒の実態に即した3領域一体のCAN-DOリストの作成・実施と評価及び指導資料、教材の作成 ・外国人の効果的な活用場面等の検討 ○ 評価方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、学校、学校関係機関、保護者地域住民等による評価の在り方の検討 ・英語能力調査（中学校・高等学校：英検IBA）の実施 ・評価の観点、評価方法の検討 ・グローブ推進チームと運営指導委員会による評価や指導をもとにした第1年次の成果と課題のまとめ及び第2年次以降の計画の修正 ○ 保護者、地域への啓発・周知
第二年次	<p>新教育課程の先行実施及び新教科「Globe」カリキュラムの完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新教科「Globe」カリキュラムの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに基づく実践と課題の明確化、改善 ・CAN-DOリストの見直し ・複式校におけるカリキュラムの研究（～4年次まで） ・評価の観点、評価規準の見直し ・コミュニケーション要素における系統的な指導の実施 ・指導資料、教材の検証と改善、改訂 ・東川町在住の外国人（ALT、CIR、SEA等）の積極的活用
第三年次	<p>新教科「Globe」カリキュラムの実施・評価・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・3要素における、幼・小と中・高の滑らかな接続の在り方の研究 ・CAN-DOリストの見直し ・複式校におけるカリキュラムの研究（～4年次まで） ・評価の観点、評価規準の見直し ・コミュニケーション要素における、「読むこと」、「書くこと」の学

	<p>習内容の小・中連携による系統的な指導の実施及び5つの領域の言語活動での評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実践研究発表会（プレ研）の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、高等学校における授業公開 ・幼稚園における国際教育（外国語活動）の公開 ○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・英語能力調査（小学校：GTEC-Junior、中学校・高等学校：英検IBA）自己評価、外部評価、英語IBA等スコア比較、質問紙調査による評価 ・第3年次の成果と課題のまとめ及び第4年次の計画作成 ○ 指導資料の作成
第四年次	<p>新教育課程の完全実施及び新教科「Globe」研究の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・3要素における、幼・小・中・高の有機的な連携についてのまとめ ・コミュニケーション要素における、「読むこと」、「書くこと」の学習内容の小・中連携による系統的な指導の実施及び5つの領域の言語活動での評価 ・ローカル要素・グローバル要素における系統的な学習内容の設定 ・教科用図書を活用及び補助教材・独自教材の開発・実施 ・「LGC配分表」の修正・改善 ・「Globe別葉」の修正・改善（教科横断的な視点） ・他地域での新教科「Globe」導入及び普及についての検討 ○ 研究実践発表会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、高等学校における授業公開（3要素） ・幼稚園における国際教育（外国語活動）の公開 ・円滑な校種間連携に関する説明・協議 ○ 英語を用いてコミュニケーションを図る体験の場の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用した交流・遠隔授業の実施 ・ALTや地域人材の効果的な活用 ○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・英語能力調査（小学校：GTEC-Junior、中学校・高等学校：英検IBA）自己評価、外部評価、英語IBA等スコア比較、質問紙調査による評価 ・児童生徒、教員、関係機関、地域等の意識調査及び分析 ・成果と課題のまとめ及び一般化のための提案（研究報告書の作成） ○ 研究開発学校指定後における新教科「Globe」の方向性の検討

（3）評価に関する取組

	評価方法等
第一年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒に係る新教科「Globe」実施の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の授業後の振り返りシート、意識（質問紙）調査、パフォーマンス（行動観察）等による実態の把握及び分析 ・英語能力調査（小学校：GTEC-Junior、中学校・高等学校：英検IBA）の実施 ○ 研究推進全体に係る評価 <ul style="list-style-type: none"> ・新教科創設にかかる運営指導委員会の指導・助言（8月） ・関係機関、JETスタッフ及び保護者によるアンケート調査の実施、結果の分析（11月）

	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム編成にかかる運営指導委員会の評価・指導・助言(1月) ○ 教員による意識調査 ・幼・小・中・高の教員による意識(質問紙)調査の実施(11月)
第二年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒に係る新教科「Globe」実施の評価 ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・英語能力調査(小学校：GTEC-Junior、中学校・高等学校：英検IBA)実施 ○ 研究推進全体に係る評価 ・関係機関、JETスタッフ及び保護者によるアンケート調査の実施、結果の分析及び経年比較(11月) ・運営指導委員会の評価・指導・助言(1月) ○ 教員による意識調査 ・前年度における意識(質問紙)調査の継続的な実施(11月)
第三年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の各評価(児童・生徒、研究推進全体、教員)の継続的な実施及び分析 ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・英語能力調査(小学校：GTEC-Junior、中学校・高等学校：英検IBA)の実施 ○ 公開研究会(プレ研)実施による検証 ・新教育課程を先行的に実施し、公開研究会を開催することで外部評価により成果と課題を明らかにし次年度への改善につなげる。
第四年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の各評価(児童生徒、研究推進全体、教員)の継続的な実施、分析及び検証 ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・英語能力調査(小学校：GTEC-Junior、中学校・高等学校：英検IBA)の実施 ・「LGC配分表」及び「Globe別葉」の整理、完成 ・各評価の4年間の集積データのまとめ ・研究報告にかかる運営指導委員会の評価・指導・助言 ○ 研究実践発表会実施による検証 ・研究実践発表会を開催し、本研究4年間の成果と課題を明らかにし、まとめを行う。

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

- ① グローバル要素を学ぶ際にローカル要素についても学ぶことによって、自国の文化や自分のことを表現したいという意欲が高まり、より深い理解につながる。また、伝える目的と必然性が明確になるため、英語力の向上につながる。
- ② 複数の教師による授業づくり、校種を超えたカリキュラム作りによって、授業改善だけでなく、教材の共有化、校種間のスムーズな接続を図ることができる。
- ③ 「Globe別葉」を作成し、教科横断的な視点で単元をデザインすることにより、指導の相乗効果が表れ、児童生徒の学習の広がりや深まりにつながる。
- ④ 町の地域連携コーディネーターを活用し、様々な分野の地域人材が授業に入ることによって、体験的に学ぶ機会が増え、単元の学びへの理解が深まる。
- ⑤ 今日的な課題について、先入観のない早い時期から出会わせ、段階的に知識を

深めることで、誰とでも寛容な態度で接し、共に生きていこうとする子供が育つ。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

- ① 多くの教職員は、「Globe」の教育効果について自覚している。この効果が他教科・他領域の中でどのように表れているのか、分析する。
- ② 特に中学校、高校での他教科との関連のあり方を明確にし、相乗効果をまとめる。
- ③ 4年間の効果を測定することによって、子供一人一人にどのような変化が表れているか分析する。
- ④ 東川町は、大学生に町独自の奨学金を支給していることから、大学進学者を把握できる。高校卒業後の進路について追跡・アンケート調査を行う。
- ⑤ 小学校1・2年生の教材の見直しと、副教材の整理（データベース）を行う。

①東川②第一③第二④第三小学校 教育課程表（令和3年度）

	各教科の授業時数										特別の教科である道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	グローバル（新設教科）	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語						
第1学年	306		136		87 (-15)	68	68		102		34			34	35 (+35)	870 (+20)
第2学年	315		175		90 (-15)	70	70		105		35			35	35 (+35)	930 (+20)
第3学年	245	90	175	105		60	60		105		35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	1015 (+35)
第4学年	245	90	175	105		60	60		105		35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	1015 (+35)
第5学年	175	105	175	105		50	50	60	90	0 (-70)	35		35 (-35)	35	105 (+105)	1020 (+35)
第6学年	175	105	175	105		50	50	60 (+5)	90	0 (-70)	35		35 (-35)	35	105 (+105)	1020 (+35)
計	1461	390	1011	420	177 (-30)	358	358	120	597	0 (-140)	209	0 (-70)	140 (-140)	209	420 (+420)	5870 (+180)

※第1・2学年については、学校裁量の時間より20時間を新教科「Globe」に充てるため、組み替えた時数の合計と「Globe」の合計は一致しない。

※第3・4学年及び第5・6学年は、複式学級で編成していることから、標準時数を上回って教育課程を編成している。（第3・5・6学年）

⑤東川中学校 教育課程表（令和3年度）

	各教科の授業時数									特別の教科である道徳	総合的な学習の時間	特別活動	グローバル（新設教科）	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	0 (-140)	35	30 (-20)	35	160 (+160)	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	0 (-140)	35	50 (-20)	35	160 (+160)	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	0 (-140)	35	50 (-20)	35	160 (+160)	1015
計	385	350	385	385	115	115	315	175	0 (-420)	105	130 (-60)	105	480 (+480)	3045

⑥東川高等学校 教育課程表（令和3年度）

	各教科の授業時数										グ ロ ー ブ	総合的な学習の時間	特別活動	総授業時数
	国 語	地歴 公民	数 学	理 科	外 国 語	芸 術	家 庭	体 育	情 報	商 業				
第1学年	140	105	140	105	0 (-140)	70	70	140		35	150	70	160 (-10)	1185 (0)
第2学年	105	105	140	105	0 (-140)	70	70	140		70	150	70	160 (-10)	1185 (0)
第3学年	105	140	105	140	0 (-93)	70		70	70		100	35	85 (-7)	920 (-10)
第3学年 次選択 2単位 3単位 を各1つ 選択		時事 問題 研究 70	数学 B 105	生物 研究 70	英語 表現 I 105 英語 会話 70		子 ど も の 発 達 と 保 育 105	ス ポ ー ツ A 70		電 卓 基 礎 計 算 105				175（2単 位・3単位 選択の合計 ）
計	350	350	385	350	0 (-373)	210	140	350	70	105	410	175	430 (-27)	3465 (-10)
選択科目 を履修し た場合		420	490	420	175		245	420		210				

※第1学年～3学年の外国語の授業時数を「Globe」に充てる。また、特別活動においても国際交流・国際理解に係る行事等を計画する。

学校等の概要①

1 学校名、校長名

東川町立東川小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワショウガッコウ）
校長 南 部 和 紀

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北8番地（TEL0166-82-2425 Fax 0166-82-4711）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

（小学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
45	2	63	2	55	2	55	2	56	2	59	2	333	12
知2 情8		知2 情5		知2 情7		知3 情4 言1		知1 情5 言1		知3 情1		知13 情30 言2	知2 情4 言1

（中学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

（高等学校の場合）

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	○○科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1	1		26		1		1	
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		2	2	36						

5 研究歴

なし

学校等の概要②

1 学校名、校長名

東川町立東川第一小学校（ヒガシカワチヨウリツヒガシカワダイイチショウガッコウ）

校長 山田 裕 司

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西10号北24番地（TEL 0166-82-2751 FAX 0166-82-5143）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

（小学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
7	1	2	1	5		3	複式1	5		7	複式1	29	4
情1		知1						情1				知1 情2	知1 情1

（中学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

（高等学校の場合）

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	〇〇科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			7		1			
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		1	1	13						

5 研究歴

なし

学校等の概要③

1 学校名、校長名

東川町立東川第二小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワダイニショウガッコウ）
校長 遠 藤 友 文

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北32番地（TEL0166-82-3019 Fax 0166-82-5170）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

（小学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
5	1	7	1	4		8	複式1	8		8	複式1	42	4
		知1 情1				情1				情1		知1 情3	知1 情1

（中学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

（高等学校の場合）

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	○○科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			7			1		
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		1	1	12						

5 研究歴

なし

学校等の概要④

1 学校名、校長名

東川町立東川第三小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワダイサンショウガッコウ）

校長 橋 早智子

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町東8号南1番地（TEL0166-82-3015 Fax 0166-82-5183）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

（小学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1		3	複式1	3		2	複式1	2		2	複式1	13	複式3
		知1 情1		知1				知1		情1		知3 情2	知1 情1

（中学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

（高等学校の場合）

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	〇〇科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			5		1			
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		1	1	11						

5 研究歴

なし

学校等の概要⑤

1 学校名、校長名

東川町立東川中学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワチュウガッコウ）
校長 松 浦 弘 泰

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町北町1丁目5番1号（Tel0166-82-2428 Fax0166-82-2348）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

（小学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数

（中学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
72	3	69	2	67	2	208	7
知2 情1		知3 情1 病1		知2 情1		11	知1 情1 病1

（高等学校の場合）

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	○○科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			20		1			1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	1	1	1	28						

5 研究歴

なし

学校等の概要⑥

1 学校名、校長名

北海道東川高等学校（ホッカイドウヒガシカワコウトウガッコウ）

校長 水 澤 弘 幸

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町北町2丁目12番1号（TEL0166-82-2590 Fax0166-82-2534）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

（小学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数

（中学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

（高等学校の場合）

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	61	2	78	2	75	2			214	6
計		61	2	78	2	75	2			214	6

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	実習助手	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			18	1	1			
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
		4		26						

5 研究歴

なし

学校等の概要⑦

1 学校名、校長名

東川町立東川幼稚園（ヒガシカワチョウリツ ヒガシカワヨウチエン）
園長 安 達 啓 一

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北8番地（TEL 0166-82-3400 Fax 0166-82-4660）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児	計
21	22	24				67人

4 教職員数

園長	副園長	事務長	室長	主幹	教務	担任	特別支援教育支援員	事務職員	看護師	栄養士
1	1	1		1		3	1	2	2	1
調理員	公務補			計						
4	1			18						

5 研究歴

なし